

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(禁無断転載)

1 級

— II

答案用紙

第2予想

平成 26 年度
第137回 日商簿記試験対策
ラストスパート模試

工業簿記・原価計算

(商業簿記・会計学終了、休憩後開始 制限時間 1 時間30分)

(実際の試験では以下の文言が記載されています。)

受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは定められたところにていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。



<http://www.net-school.co.jp/>

©Net-School

平成26年度 ラストスパート模試・第2予想
第137回対策 答案用紙

生年月日

氏名

× (ココヲトジル) ×

試験地(会議所名)	採 点 欄

1 級 ③

工 業 簿 記

第 1 問

問 1

	変 動 費 率	固 定 費 率	合 計
第 1 製造部	円/時間	円/時間	円/時間
第 2 製造部	円/時間	円/時間	円/時間

問 2

(1) 問1の計算に比べ、第1製造部門費予算額は 万円 (増加・減少) する。

(2) 問1の計算に比べ、第2製造部門費予算額は 万円 (増加・減少) する。

(注) () 内は適切な語句を○で囲みなさい。

問 3

製造間接費－第 1 製造部				製造間接費－第 2 製造部			
第 1 次集計費	()	仕掛－第 1 *へ振替	()	第 1 次集計費	()	仕掛－第 2 *へ振替	()
動力部門費	()	配賦差異	()	動力部門費	()	配賦差異	()
修繕部門費	()			修繕部門費	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>		<u>()</u>		<u>()</u>
仕掛製造間接費－第 1 製造部				仕掛製造間接費－第 2 製造部			
前月繰越		次工程振替		前月繰越		完 成 品	
当工程費	461	当工程費	()	前工程費	1,350	前工程費	()
当月製造費用		次月繰越		当工程費	960	当工程費	()
当工程費	()	当工程費	()	当月製造費用		次月繰越	
	<u>()</u>		<u>()</u>	前工程費	()	前工程費	()
				当工程費	<u>()</u>	当工程費	<u>()</u>
					()		()

* 「仕掛—第1」は「仕掛製造間接費—第1製造部」を、「仕掛—第2」は「仕掛製造間接費—第2製造部」をそれぞれ略したものである。

問 4

製造部門費配賦差異	予 算 差 異	操業度差異
第 1 製造部	円 () 差異	円 () 差異
第 2 製造部	円 () 差異	円 () 差異
補助部門費配賦差異	総 差 異	
動 力 部	円 () 差異	
修 繕 部	円 () 差異	

問 5

(单位: 万元)

$\mathbf{x} = \begin{pmatrix} \\ \\ \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \\ \\ \end{pmatrix}$	$\mathbf{y} = \begin{pmatrix} \\ \\ \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \\ \\ \end{pmatrix}$
--	--

第2問

①	②	③
④	⑤	⑥

合格アシストノート 第2予想 工業簿記

1 製造間接費部門別予定配賦率の算定(階梯式配賦法その1)

1. 階梯式配賦法における配賦順位の決定
動力部の第1次集計費()万円 修繕部の第1次集計費()万円
不等号

よって、()部を優先順位の高い部門とします。

2. 製造間接費の部門別予算額の集計

製造間接費予算部門別配賦表 (単位：万円)

摘要	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造	第2製造	()	()
第1次集計費	10.100	4,656	3,254	()	()
()	()	()	()	()	()
製造部門費計	10.100	()	()	()	()
予定配賦率	@ ()円	@ ()円	@ ()円		
変動費率	@ ()円	@ ()円	@ ()円		
固定費率	@ ()円	@ ()円	@ ()円		

2 階梯式配賦法その2

1. 階梯式配賦法における配賦順位の決定

①動力部門費の修繕部への配賦額：1,200万円× $\frac{10,000\text{kw}\cdot\text{h}}{100,000\text{kw}\cdot\text{h}}$ =()万円

②修繕部門費の動力部への配賦額：990万円× $\frac{100\text{時間}}{600\text{時間}}$ =()万円

よって、① () ②により、()部を優先順位の高い部門とします。

2. 製造間接費の部門別予算額の集計

製造間接費予算部門別配賦表 (単位：万円)

摘要	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造	第2製造	()	()
第1次集計費	10.100	4,656	3,254	()	()
()	()	()	()	()	()
製造部門費計	10.100	()	()	()	()

3 累加法の工程別総合原価計算と勘定記入

1. 第1製造部(第1工程の原価計算(先入先出法)

<勘定記入>

<勘定記入>

前月繰越	461万円	月初仕掛品 10,000個 ()個	工程完成品 55,000個 (55,000個)	次工程振替 …()万円
当月製造費用 ()万円	当月投入 65,000個 ()個	月末仕掛品 20,000個 ()個	次月繰越 …()万円	

2. 第2製造部(第2工程の原価計算(先入先出法)

(1) 前工程費

<勘定記入>

<勘定記入>

前月繰越	1,350万円	月初仕掛品 ()個	工程完成品 60,000個	完成品 …()万円
当月製造費用 ()万円	当月投入 ()個	月末仕掛品 ()個	次月繰越 …()万円	

合格アシストノート 第2予想 工業簿記

(2) 当工程費

<勘定記入>

当工程費

<勘定記入>

前月繰越 960万円	月初仕掛品 ()個	工程完成品 60,000個	完成品 …()万円
当月製造費用 ()万円	当月投入 ()個	月末仕掛品 ()個	次月繰越 …()万円

4 製造部門費の実際発生額の集計

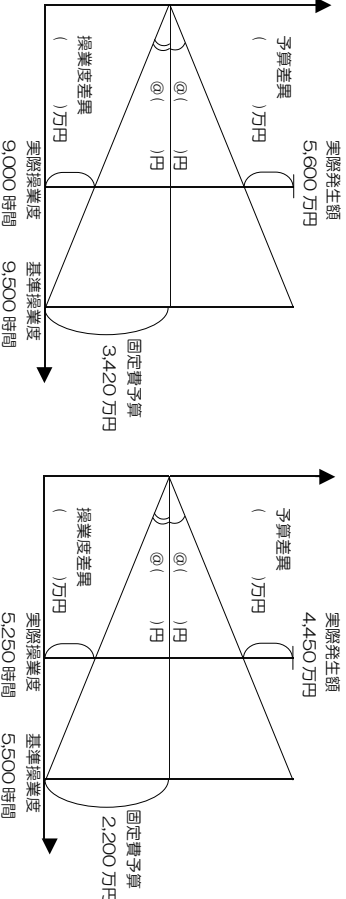
製造間接費実際部門別配賦表 (単位：万円)

摘要	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造	第2製造	()	()
第1次集計費	10,177.5	4,580	3,304	()	()
()	()	()	()	()	()
製造部門費計	()	()	()	()	()

5 配賦差異分析

第1製造部

第2製造部



6 連立方程式法

製造間接費予算部門別配賦表

(単位：万円)

摘要	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造	第2製造	動力	修繕
第1次集計費	10.100	4,656	3,254	1,200	990
動力部門費 (×)		()×	()×	—	()×
修繕部門費 (×)		()×	()×	()×	—
製造部門費計	10.100	()	()	()×	()×

資格アシストノート

第2予想

原価計算

1 各製品の1個あたりの貢献利益

現有設備		新設備	
製品A	製品B	製品A	製品B
()円	()円	()円	()円
販売単価			
1個あたりの直接材料費	()円	()円	()円
1個あたりの変動製造間接費	()円	()円	()円
1個あたりの変動販売費	()円	()円	()円
1個あたりの貢献利益	()円	()円	()円

2 取替投資

1. 現有設備で生産するときの製品Aの年間最適生産販売量
- (ア) 年間最大生産可能量：()個
- (イ) 市場需要量：()個 ()個
- (ウ) (ア) ()個 ()個 ∴ ()個
2. 新設備で生産するときの各製品の年間最適生産販売量
- (1) 各製品の機械作業1時間あたりの貢献利益
- 製品A：①()円(1個あたりの貢献利益)÷()時間(1個あたりの機械作業時間)＝()円/時間
- 製品B：②()円(1個あたりの貢献利益)÷()時間(1個あたりの機械作業時間)＝()円/時間
- よって、()円/時間(製品A) ()円/時間(製品B) ∴ 製品()を優先
2. 最適セールス・ミックス
- ① 製品A
- (ア) 年間最大生産可能量：()個
- (イ) 市場需要量：()個
- (ウ) (ア) ()個 ()個 ∴ ()個
- ② 製品B
- ∴ ()個

3. 新設備で製品を生産する案の年々の税引後差額キャッシュ・フロー

新設備案		現有設備案		差額
製品Aの貢献利益	製品Bの貢献利益	減価償却による節税額	固定製造間接費の支出額	
()円	()円	()円	()円	()円
()円	()円	()円	()円	()円
()円	()円	()円	()円	()円
()円	()円	()円	()円	()円

4. 新設備で製品を生産する案の各年度末のキャッシュ・フローの整理

現在(当期末)		1年度末		2年度末		3年度末	
新設備案		新設備案		現有設備案		差額	
(1) 製品Aの貢献利益	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
(2) 製品Bの貢献利益	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
(3) 減価償却による節税額	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
(4) 固定製造間接費の支出額	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円

(注1) 便宜上、翌期を1年度としています。

(注2) C I F … キャッシュ・インフロー、C O F … キャッシュ・アウトフロー

① 現有設備の売却収入

② 現有設備の売却損による節税額

③ 新設備の取得による支出

④ 年々の差額キャッシュ・フロー(上記3.より)

3 拡張投資

1. 現有設備のみで生産するときの製品Aの年間最適生産販売量
- ()個
2. 現有設備と新設備を併用して生産するときの各製品の年間最適生産販売量
- (1) 製品Aの生産を優先的に割り当てるべき設備
- ① 新設備で製品Aを1個増産するときの製品Bの減産量
- ()時間(製品A1個に要する機械作業時間)÷()時間(製品B1個に要する機械作業時間)＝()個
- ② 新設備で製品Aを1個増産するときの機会原価(製品Bの減産分の貢献利益)
- ①()円(製品B1個あたりの貢献利益)×()個＝②()円
- ③ 機会原価を踏まえた上での新設備による製品A1個あたりの貢献利益
- ①()円(製品A1個あたりの貢献利益)－②()円(機会原価)＝③()円
- ④ 製品Aの生産を優先的に割り当てるべき設備の決定
- ①()円(③) ()円(④) ∴ ()個
- ∴ ()設備に製品Aの生産を優先的に割り当てます。
- (2) 最適セールス・ミックスにおける現有設備の製品Aの生産量
- (ア) 年間最大生産可能量：()個
- (イ) 市場需要量：()個
- (ウ) (ア) ()個 ()個 ∴ ()個
3. 最適セールス・ミックスにおける新設備の製品A・製品Bの生産量
- ① 製品A
- (ア) 年間最大生産可能量：()個
- (イ) 市場需要量：()個
- (ウ) (ア) ()個 ()個 ∴ ()個
- ② 製品B
- 余剰生産能力：()機械作業時間－()時間(製品Aの生産に要する時間)＝()時間
- (ア) 年間最大生産可能量：()機械作業時間÷()時間(1個あたりの機械作業時間)＝()個
- (イ) 市場需要量：()個
- (ウ) (ア) ()個 ()個 ∴ ()個
- 最適セールス・ミックス
- (ア) 年間最大生産可能量：()個
- (イ) 市場需要量：()個
- (ウ) (ア) ()個 ()個 ∴ ()個

4. 現有設備と新設備を併用して生産する案の各年度末のキャッシュ・フローの整理

現在(当期末)		1年度末		2年度末		3年度末	
併用案		併用案		現有設備案		差額	
製品Aの貢献利益	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
製品Bの貢献利益	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
減価償却による節税額	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
固定製造間接費の支出額	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円

3. 現有設備と新設備を併用して生産する案の年々の税引後差額キャッシュ・フロー

現在(当期末)		1年度末		2年度末		3年度末	
併用案		併用案		現有設備案		差額	
製品Aの貢献利益	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
製品Bの貢献利益	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
減価償却による節税額	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円
固定製造間接費の支出額	()円	()円	()円	()円	()円	()円	()円

① 新設備の取得による支出

② 年々の差額キャッシュ・フロー(上記3.より)

計 算 用 紙

半分に切ってお使いください

計 算 用 紙

半分に切ってお使いください